

令和2（2020）年度
福島大学 FD 活動報告書
～大学教育改善の追求～



2021年7月

福島大学

はじめに

令和2年度（2020年度）の福島大学におけるFD活動を、ここにまとめてご報告いたします。内容としては、全学FD研究会に始まり、各学類・研究科のFD活動の紹介、各種アンケートの集計結果等となります。

FDは、広義には、教育のみならず、研究、大学の管理運営、社会貢献、大学教員としてのキャリア開発等、大学教員に求められる資質・能力全般の開発を指しますが、今日では教育改善という狭義の意味で用いられることが一般的となっています。

この『福島大学FD活動報告書』においても、教育改善に焦点を絞って全学、及び各学類・研究科のFD活動を紹介していきます。

令和2年度（2020年度）は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全国的に様々な課題に直面した年でした。大学教育においても、遠隔授業をはじめとした新しい教育形態にチャレンジしなければならず、誰も手が探りでそのあり方を模索してきました。

そのような背景のもと、「全学FD研究会」では、遠隔授業における知恵や工夫、課題等を共有するとともに、遠隔授業の経験から、これまでとこれからの大学教育のあり方を協働的に検討しました。

全学FD研究会の成果物は、遠隔授業のTips集にもなっています。また、遠隔授業アンケート結果も、学生の実態や遠隔授業を検討する手がかりになっています。これらが、これまでとこれからの大学教育を考えるうえでのひとつの材料になれば幸いです。

『福島大学FD報告書』が「報告書」である限りにおいて、それぞれの活動に価値判断を行うことは適切ではないと思われます。他方で、全学、各学類・研究科の多様なFD活動には、相互に参照・共有すべき素晴らしい取り組みが多数存在しています。

この『福島大学FD活動報告書』を通して、福島大学において実践される多様なFDが発掘・共有され、福島大学における教育がより良いものへと改善されていくことを心より願っております。

教育推進機構 高等教育企画室

目次

はじめに.....	1
全学 FD 研究会.....	2
令和 2（2020）年度全学 FD 研究会要項.....	3
令和 2（2020）年度全学 FD 研究会事前説明会.....	4
成果物.....	5
基盤教育.....	6
人間発達文化学類.....	28
行政政策学類.....	47
経済経営学類.....	51
共生システム理工学類.....	57
環境放射能研究所.....	78
食農学類.....	81
各学類・研究科の FD 活動.....	85
人間発達文化学類.....	86
行政政策学類.....	87
経済経営学類.....	88
共生システム理工学類.....	90
食農学類.....	91
基盤教育における FD.....	92
DP 達成度の自己評価結果.....	92
前記集計結果.....	93
後期集計結果.....	96
授業評価アンケート集計結果.....	99
前期集計結果.....	99
後期集計結果.....	121
遠隔授業アンケート.....	142
遠隔授業アンケート集計結果.....	142

全学 FD 研究会

令和 2 年度 全学 FD 研究会記録

令和 2（2020）年度全学 FD 研究会要項

テーマ：遠隔授業の経験から見るこれからの大学教育

1. 実施日時等

① 実施日：2020 年 10 月 29 日（木）

【情報共有】3 密回避のため全体会は実施しない

第 1 部【基盤教育カリキュラム FD】10:00～12:00

第 2 部【専門教育カリキュラム FD】13:30～15:30

② 対 象：本学の全教員（特任教員を含む学類教員、授業を行っているセンター教員）、教務課員
及び希望する非常勤講師

③ 企 画：教育推進機構・高等教育企画室、専門教育・基盤教育の各カリキュラム FD 担当、教務課

2. 全学 FD 研究会の趣旨・目的

本研究会は、「福島大学の new 教育制度 2019」で示した教育の内部質保証システムとしての PDSA サイクルの内、とりわけ「S：Study（研究）」として位置づいています。他方、第 1 回目の全学 FD 研究会では、「DP ポイント配分」、当該カリキュラム（教育プログラム）が目指す水準や成績評価方法について、第 2 回目では成績評価の分布について議論するというように「検討する・決めること、確認すること」に重点が置かれていました。

2020 年度前期は、全ての授業が「遠隔授業」となり、全員が新しいカタチの授業のあり方を模索し、その実践に挑戦することとなりました。また、後期の授業においても、一部の科目が「遠隔授業」によって実施されます。そこで、今回の全学 FD 研究会では、前期の遠隔授業での様々な経験やそこから得られた知見を「共有すること、議論すること」に重点を置くことを企図しています。

3. 2020 年度のカリキュラム FD の方向性

より具体的には、2020 年度のカリキュラム FD は、「遠隔授業」をキーワードとして、以下の 2 点を基本的な方向性として実施することを企図しています。

- ① 2020 年度前期に実施した「遠隔授業」について、授業実践事例や学生の傾向、Good Practice や改善点等の共有等、協働的な省察を行う。
- ② 全学・学類の DP を意識しつつ、課題の多寡や学生の理解度・到達度等、遠隔授業の経験・知見から見えてくる「これからの大学教育・授業のあり方」を検討する。

4. その他

追加提供資料

- ・ 遠隔授業に関するアンケート調査結果（高等教育企画室）
- ・ 2019 年度後期・2020 年度前期 成績分布表

出席者数：192 名

出席率：192/244 名（大学概要より 学長 1 名・監事 2 名＝計 3 名除く）＝78.7%

令和 2（2020）年度全学 FD 研究会事前説明会

■ 高等教育企画室から参加者へ事前に送付する資料

- ・ 基盤教育カリキュラム FD の参加部会・教室の一覧表
- ・ 遠隔授業に関する学生アンケート（参考資料）
- ・ 19 後期・20 前期成績分布表（参考資料）
- ・ 参加部会に対応した「提出用カリキュラム FD シート」

* 参考資料、提出用カリキュラム FD シートは事前に記入・手持ち資料として当日持参

* 全学 FD 研究会終了後の提出用カリキュラム FD シートの回収は高等教育企画室が行う

* 参加者への上記の連絡は高等教育企画室が行う

■ カリキュラム FD 担当者の当日の役割

- * 高等教育企画室からカリ担へ「提出用カリキュラム FD シート（まとめ用）」を事前に送付
- ・ 提出用カリキュラム FD シートの項目に基づいてファシリテーションを行う
- * ノート PC をご持参していただく
- ・ 提出用カリキュラム FD シート（まとめ用）をスクリーンに投影していただく
- ・ 議論の内容をその場でメモしていただく（推奨）

■ カリキュラム FD の進行例

- ① DP ポイント配分、各カリキュラム（プログラム）の「概要」、「単位認定基準」の確認（～5 分）
- ② 成績分布表の確認（～5 分）
- ③ アンケートの要点の共有（～10 分）
- ④ 遠隔授業における授業実践事例の共有（～40 分）
 - ・ 遠隔授業実践事例
 - ・ 遠隔授業における工夫・良かった点等
 - ・ 遠隔授業における課題・改善点等
- ⑤ 遠隔授業から見る授業全般のあり方に関する意見交換（～60 分）
 - ・ 対面式でも活用できそうな実践事例
 - ・ 遠隔授業から見える「授業全般」の課題・改善点等
 - ・ 遠隔授業から見る授業全般のあり方

■ 全学 FD 研究会終了後

- ・ 提出用カリキュラム FD シート（まとめ用）を完成させる
- ・ 完成した提出用カリキュラム FD シート（まとめ用）を高等教育企画室に送付する
- * 送付先：

■ その他

- ・ 専門教育カリキュラム FD の会場はカリキュラム FD 担当者で確保・周知していただく

成果物：カリキュラム FD シート

<学内限定で公開>

各学類・研究科のFD活動

各学類・研究科FD活動報告書

人間発達文化学類

1. 学類

① FD 研修会

- (1) スタートアップセミナー／問題探究セミナーII 報告会（教務委員会）2020年7月29日（水）各クラスで実施された「スタートアップセミナー」および「基礎演習」の内容、方法、課題などについて資料をもとに報告し合い、意見交換・情報交換を行った。ZOOM 会議。
- (2) 問題探究セミナーI報告会（教務委員会）2021年1月27日（水）各クラスで実施された「問題探究セミナーI」の内容・方法・課題、初年次レポートについて資料をもとに報告し合い、意見交換・情報交換を行った。ZOOM 会議。

② FD 調査

- (1) 「スタートアップセミナー／問題探究セミナーII」「問題探究セミナーI」実施概要調べ（教務委員会）2020年7月、2021年1月

③ FD 活動

- (1) 5月20日「多様な性・性的マイノリティに関して」（FD 推進会議）杉浦教務委員長 出席者数 49名
- (2) 6月10日「卒業生アンケート報告」（FD 推進会議）杉浦教務委員長 出席者数 49名
- (3) 7月8日「新型コロナウイルスに関する学生調査(速報)報告」（FD 推進会議）杉浦教務委員長 出席者数 52名
- (4) 9月16日「学類における前期遠隔授業取り組みの紹介」（FD 推進会議）杉浦教務委員長 出席者数 50名
- (5) 10月14日「成績不振者調査について」（FD 推進会議）川本学生生活委員長 出席者数 50名
- (6) 11月11日「全学 FD 研修会における専門科目の審議内容報告」（FD 推進会議）各カリキュラム FD 担当者 出席者数 50名
- (7) 12月9日「2019年度卒業生の就職状況・2020年度卒業生の就職状況（中間報告）」（FD 推進会議）渡辺就職委員長 出席者数 48名
- (8) 1月13日「学類・研究科における感染予防対策について」（FD 推進会議）朝賀学類長 出席者数 49名
- (9) 2月10日「2020年度学類 FD 研修会報告」（FD 推進会議）水澤教務委員 出席者数 48名
- (10) 3月10日「大学院生の学修等に関するアンケート・大学院生の研究発表等に関するアンケート報告」（FD 推進会議）杉浦教務委員長、半沢教務副委員長 出席者数 51名

2. 研究科

- (1) 研究発表状況等に関する調査（教務委員会）2021年1月
- (2) 学業の成果および修了研究についての調査（教務委員会）2021年1月

行政政策学類

1. 全学FD研究会 プログラムレビュー

日時：2020年10月29日

「地域政策と法コース」「地域社会と文化コース」に分かれて、プログラムレビューを行い、「カリキュラムFDシート」（別紙1及び2）の取りまとめを行った。コロナ禍における遠隔授業実施に伴う課題、改善点、評価、さらに成績分布、DP配分等、そこで出された課題については、学類独自で行うFD懇談会で引き続き意見交換することとした。

2. スタートアップセミナー/問題探究セミナーⅠ/問題探究セミナーⅡ・Ⅲ担当者アンケートの実施

上記課題を受け、昨年同様担当者懇談会の実施を模索したが、コロナ禍のため、1年生ゼミ、2年生ゼミ担当者へのアンケートの実施にとどめた。以下、目についたコメントを紹介する。

① テーマ設定

- ・文章を書くことが苦手な学生が一定数いることが前から気になっていたので論文やレポートの書き方を集中的に学べるような内容とした
- ・今後の政治・行政に関する学習のベースとなるような、日本全体の統治システムに関わるテーマ
- ・内容面のねらいと、学び方のねらいの両社をいかに「編む」か、兼ね合いに苦労した
- ・コース横断型問題探究セミナーⅡ・Ⅲ) 前期の問題探究セミナーの教員とある程度の連続性をもたせるよう腐心した

② 遠隔授業のメリット

- ・Zoomで画面共有ができるので、レポートの添削を教員だけでなく、学生同士でできた
- ・疑問点や参考資料の紹介など、メール等で気軽に問い合わせるよう、呼びかけたところ、むしろ例年よりも個別の質問が増えた印象がある

③ 遠隔授業のデメリット

- ・Web会議システムによる授業は視線が合わず、アイコンタクト・相互の緊張感が生まれず、授業内での学生同士の私語による相談ができない、など、対面授業に遠く及ばない
- ・ふつう、1年生ゼミは濃密(?)な人間関係ができるものであるが、遠隔が中心であったため、そこまでいかなかったように思う(「濃密」がよいとも一概にはいえないが)

④ その他

- ・成績評価について、「S」と「A」の境界設定に苦労した

経済経営学類

1. はじめに

2020年度は新カリキュラム開始2年目となり、1・2年生は新カリキュラム、3・4年生は旧カリキュラムということ意識したFD活動となった。学類のFD活動の中心が「経済経営学類教育カリキュラムに関する日常的自己評価報告書」(以下、自己評価報告書)の作成に向けて実施される各種活動であることは、これまでと変わらないが、新型コロナウイルス対応という新しい課題が加わった年になったことから、例年とは異なる部分も生じている。自己評価報告書作成のためのアンケートについては、2年生アンケートについては新カリ、4年生アンケートについては旧カリとなっており、結果の解釈についても注意が必要となる。

本報告書は2020年度における経済経営学類のFD活動を振り返るものだが、構成員が同一となっている経済学研究科のFD活動も含めることとする。

2. 活動報告

➤ 2020年4月7日～4月15日:遠隔講義実施方法案の検討と情報共有

ほとんどの教員がオンライン形式での講義が初めてであることをふまえて、教務委員を中心に方法案について検討し、全教員に対して情報共有を行った。また、補足説明としてオンラインによる検討会を実施した。

➤ 2020年6月10日:成績分布についての検討

2019年度後期末時点における学年別の修得単位・GPA等の結果を資料として教務委員の説明の後に、課題等について意見交換を実施した。

➤ 2020年6月11日:就学状況報告書(前期分)の作成と関連する指導

アドバイザー教員が面談等を実施し、就学状況報告書を作成した。集約結果をもとに、教務委員・学生委員が特別な指導が必要な学生に対する面談指導を実施した。

➤ 2020年10月:2019年度の「経済経営学類教育カリキュラムに関する日常的自己評価報告書(第14号)」発行

➤ 2020年10月9日～10月30日:2年生アンケートの実施

2年生に対して3セメスターまでの講義および学習状況についてのアンケートを実施した。

➤ 2020年10月29日:全学FD研究会

専門教育のカリキュラムFDをリテラシーA、リテラシーB、経済学コース、経営学コース、グローバル・エキスパート・プログラムの5グループに分かれて実施した。新カリキュラム開始から1年半が経過し、リテラシー科目は全て開講されていることから、新カリキュラムに関する検討を中心に進めた。

➤ 2020年10月21日～11月10日:就学状況報告書(後期分)の作成と関連する指導

アドバイザー教員が面談等を実施し、就学状況報告書を作成した。集約結果をもとに、教務委員・学生委員が特別な指導が必要な学生に対する面談指導を実施した。

➤ 2020年12月上旬～2021年4月末:2年生アンケートに関わるFD活動

カリキュラムグループ単位(旧カリ:キャリア形成論、キャリアモデル学習、リテラシーI～III、教養演習、経済英語・日本語演習)において、2年生アンケートの集計結果をもとに意見交換を実施し、その結果を各グループの世話人が報告書用の原稿としてまとめる(経済経営学類教育カリキュラムに関する日常的自己評価報告書第15号に掲載予定)。

➤ 2020年3月10日:経済経営学類・経済学研究科FD会議の実施

研究科については、大学院アンケートをもとに、現状についての情報共有を行うとともに、改善点等について意見交換を行った。学類については、4グループ(経済分析専攻、国際地域 経済専攻、企業経営専攻・経営学、企業経営専攻・会計学)に分かれ、2年生アンケートを素材として新旧カリキュラムの運営に関わる課題等について意見交換を行った。以上の結果は各グループで結果を報告書用にまとめる予定である(経済経営学類教育カリキュラムに関する日常的自己評価報告書第15号に掲載予定)。

➤ 2020年12月18日:経済経営学類ゼミナール合同報告会の実施

ゼミ単位で実施している調査研究の内容を相互に情報共有するとともに、学生のプレゼンテーションの機会として毎年年末に実施している。今年度は9ゼミから11の報告があった。

共生システム理工学類

2020 年度の本学類の FD は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う遠隔授業の実施や、学類での実験・実習の実施例に特化して実施した。

1) 遠隔授業の実施（とくに学類基礎科目について）

各科目担当者から現状報告と試験，レポート，成績評価について報告され，多くの出席者に共有された。試験におけるカンニング対策について意見交換が行われた。対策に苦慮している科目が存在する一方，様々な成績評価の工夫もなされていることが共有された。一例として，ある科目では時間差試験や試験時間を短時間に設定するなどの方策について説明された。また，パスワード付き pdf として試験問題をあらかじめ配信する方法も紹介された。別の科目では動画配信やアルゴリズム課題評価の工夫が紹介され，学生のやる気を引き出す方策が示された。さらに，平時の対面講義より遠隔授業の方が良い面がある実感についても報告された。

2) 新型コロナ感染症対策に対応した実験・実習の実施例

・物理学実験（集中）

9 月 16, 17, 23, 24 日に実施し，レポート提出は 10 月 2 日に設定した。受講者数は 60 名で，教室は基礎物理学実験室を使用した。実施前に事前学習とガイダンスを行い，事前学習動画（計 411 分）を YouTube と“おまかせファイルサーバー”で配信した。実施に際して，感染予防のガイドラインに準拠し，飛沫感染予防の机上パーティションを学類予算で購入し準備した。なお，体調不良者（他の集中講義との重複含む）に対する補講日程を，10 月 7, 12, 28 日および 11 月 4 日に設定した。

・化学実験 I（集中）

9 月 7, 8, 9, 10, 11 日に実施し，レポート提出は 9 月 23 日とした。受講者数は 44 名で，教室は化学実験室，基礎物理学実験室，および生態学実験室を使用した。実験テーマは 5 テーマ（1 人実験：1 テーマ，2 人実験：4 テーマ）とし，少量の薬品（キット化したもの）で実験を行った。実施に際して，2 人実験の場合は，対面にはならないが十分な距離を取ることは難しかった。なお，体調不良者（他の集中講義との重複含む）に対しては個別対応をとった。

・自然環境調査法（野外・集中）

8 月 17, 18, 19, 20, 21 日に宿泊して集中形式で実施した。受講者は 6 名で，実習地は筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所であった。現地までは自動車で移動した。宿泊は 4 人定員の部屋に 1 人ずつ宿泊した。感染予防対策としては，福島大学のガイドラインに加え，筑波大学の健康管理基準にも従った。実験機器は 1 人に 1 台とし，共用しないようにした。

食農学類

食農学類は平成31年度（令和元年度）に第一期の学生を受け入れ、担当教員も8月にすべて着任し、完成年度に向け学年進行中である。令和元年10月8日に「食農学類内部質保証実施要項」を制定し、FDへの取り組みを明確に定めた。

令和2年度の学類独自のFDの取り組みとして、以下を実施した。

1) 実践型農学教育（食農実践演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の実施について

4セメスターから県内7ヶ所の自治体の地域課題に学生が取り組む食農実践演習Ⅰ（必修、金曜3限）を開講した。

各自治体が負担する実習経費を管理するために地域連携推進室を設け、演習担当責任者の出席のもとに運営会議を定期的に行った。

学生が自治体関係者、地元住民などに取材して地域課題を引き出す必要性があることから、専門知識を持つ教員がFD活動として「ファシリテーションスキル」に関する講義を教員対象に行った（エビデンス資料：議事録）

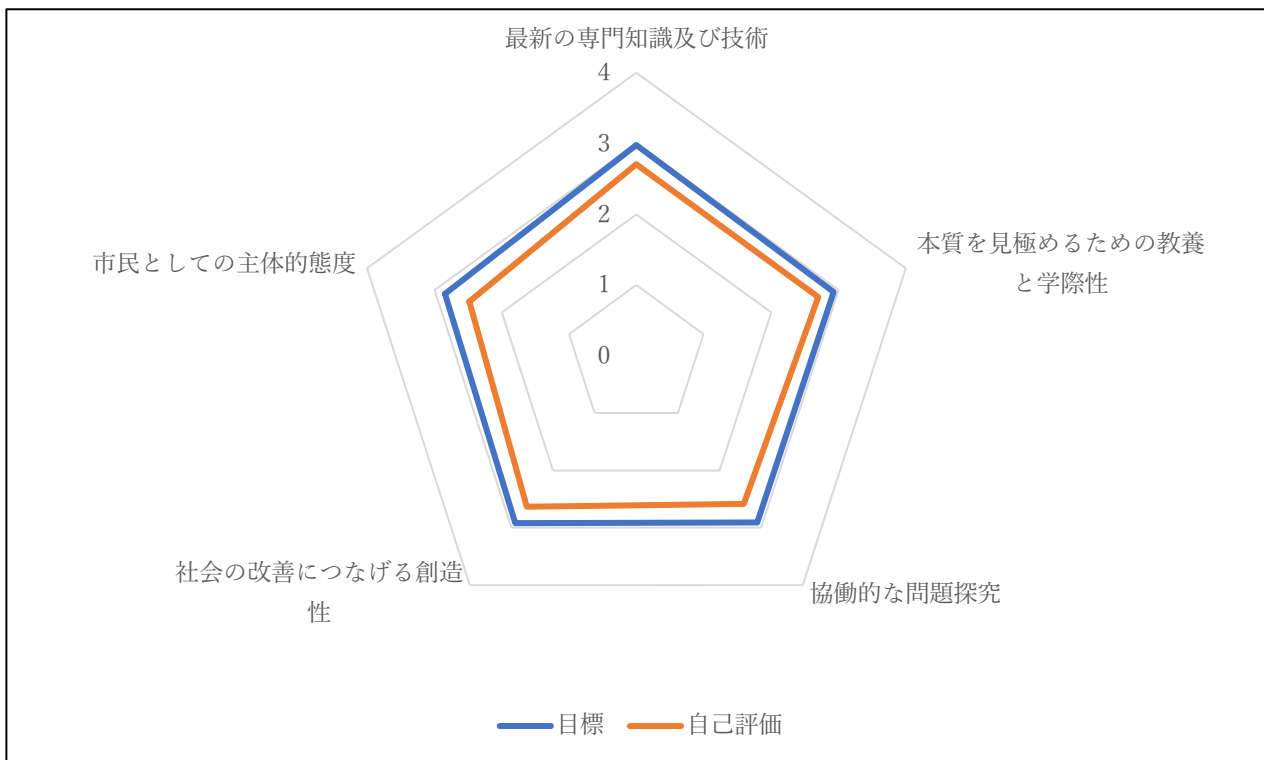
2) 農場基礎実習の見直しについて

令和元年度、2年度と実施した1年生対象、必修の農場基礎演習Ⅰ、Ⅱについて、教員が全員揃い、農場と実習実験室を有する研究棟内の設備整備が進んだことから、令和3年度の実施内容の見直しを行った。農場基礎演習Ⅰ、Ⅱは食農学類4コースがすべて実習内容を分担するため、季節的な制約がある作物栽培を基本とするスケジュールを構築するとともに、雨天対応も含めた学類全体による実施体制を検討した。

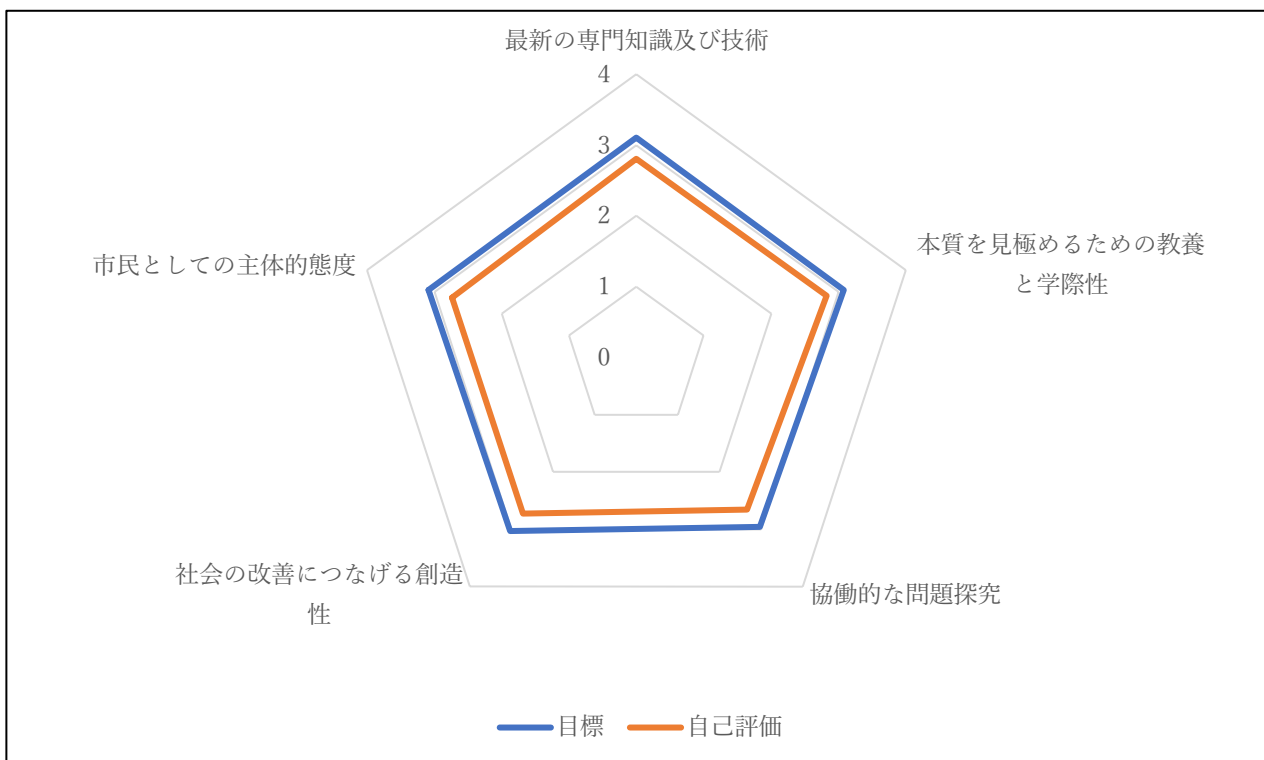
DP 達成度の自己評価結果

前記集計結果

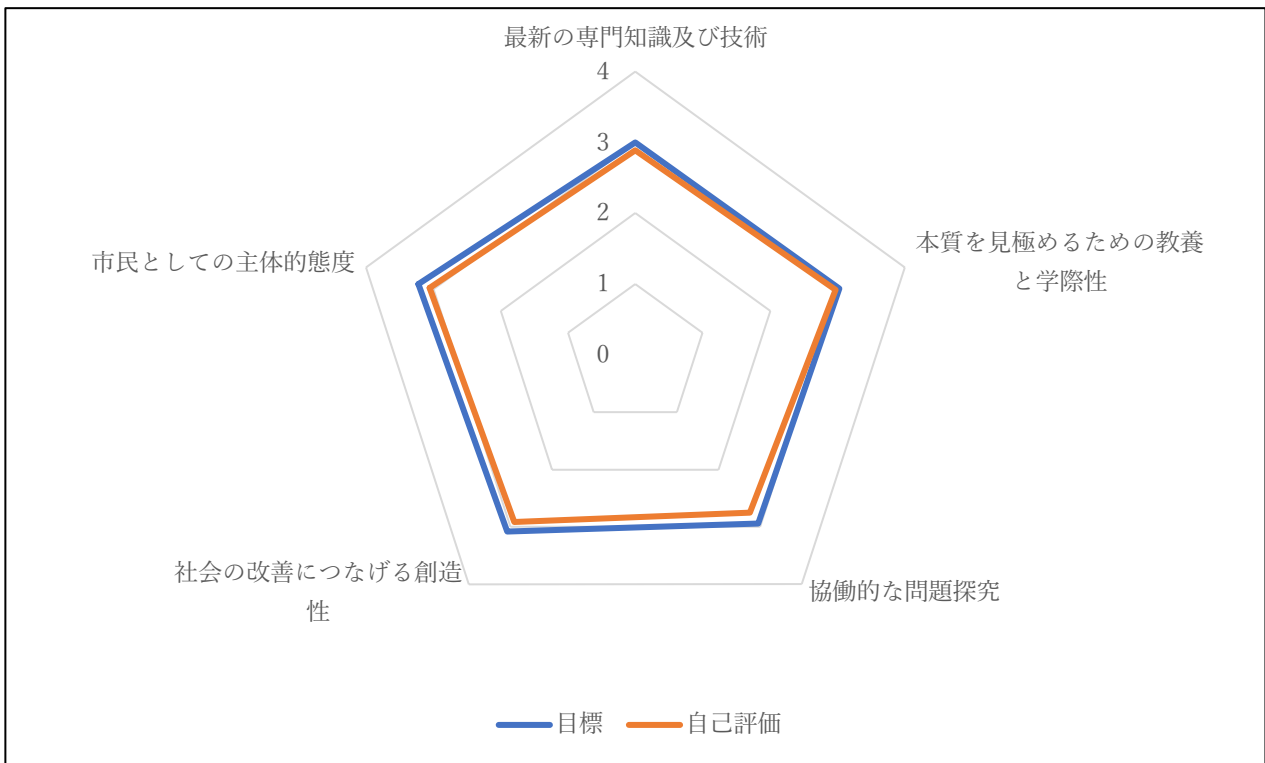
人間発達文化学類



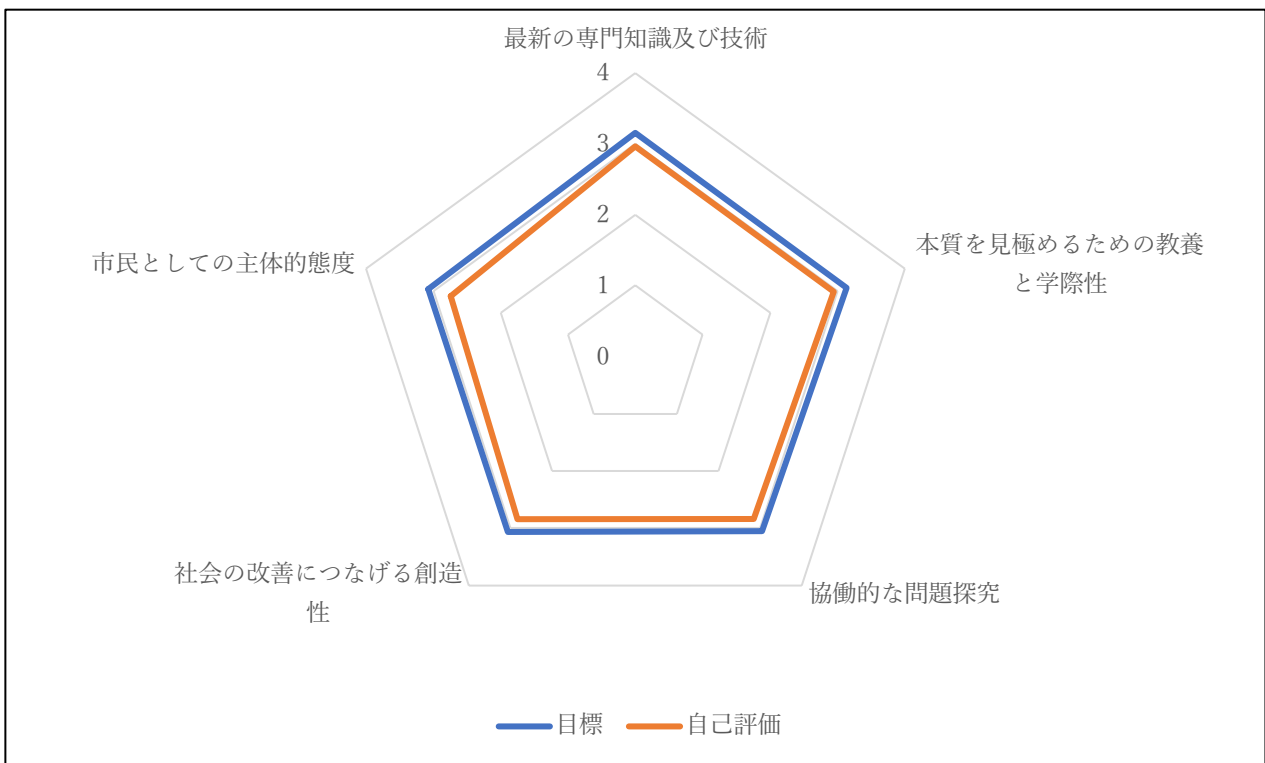
行政政策学類



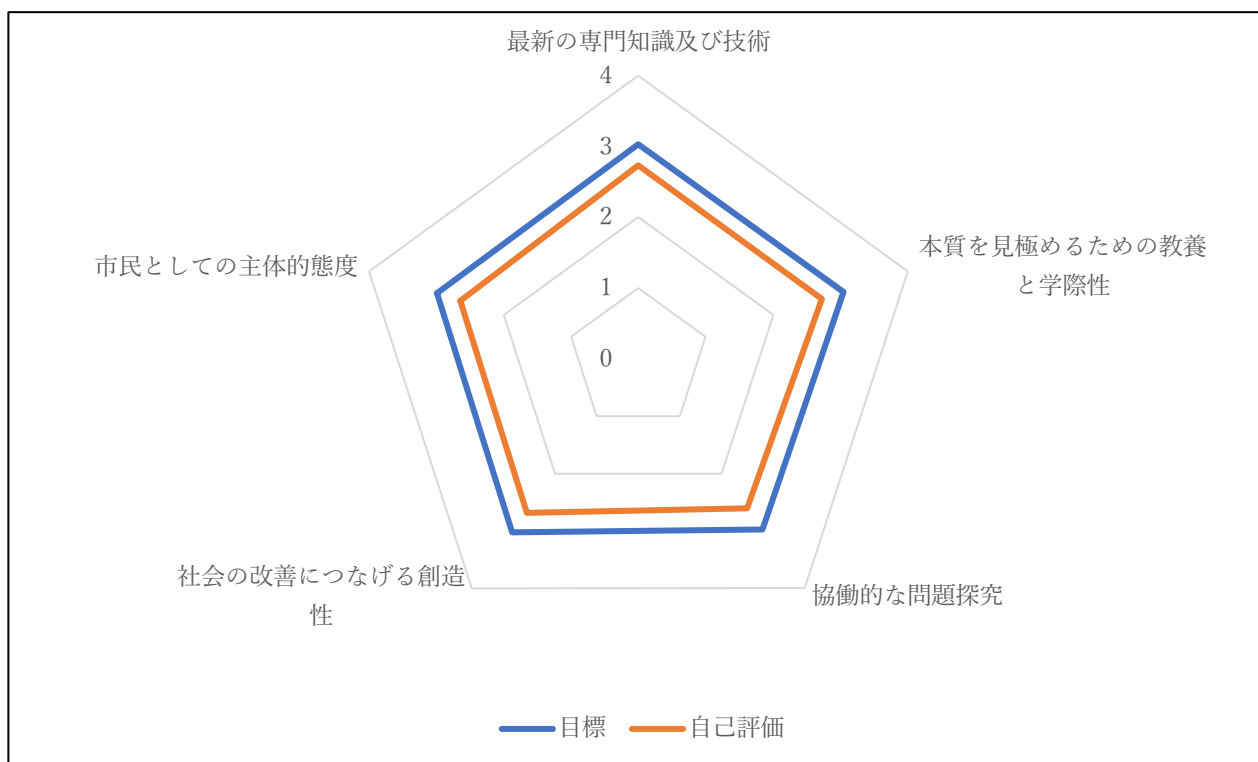
行政政策学類（夜間主）



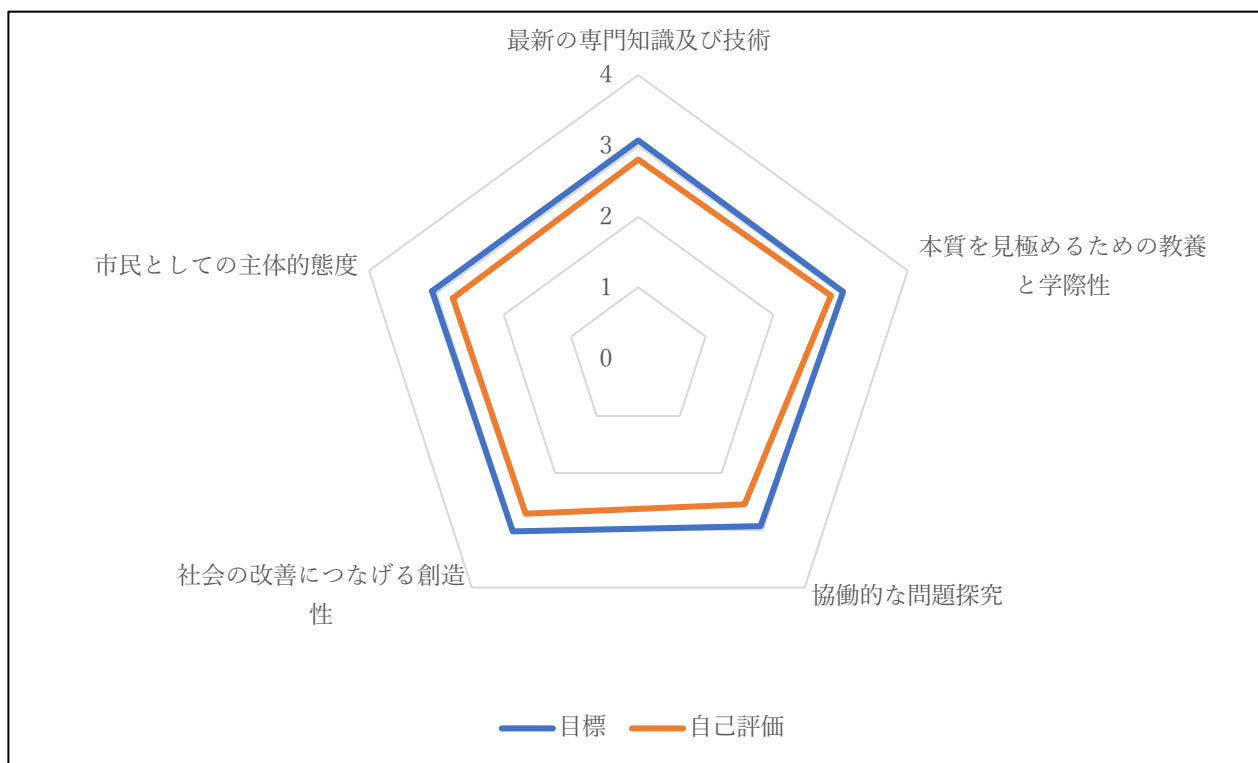
経済経営学類



共生システム理工学類

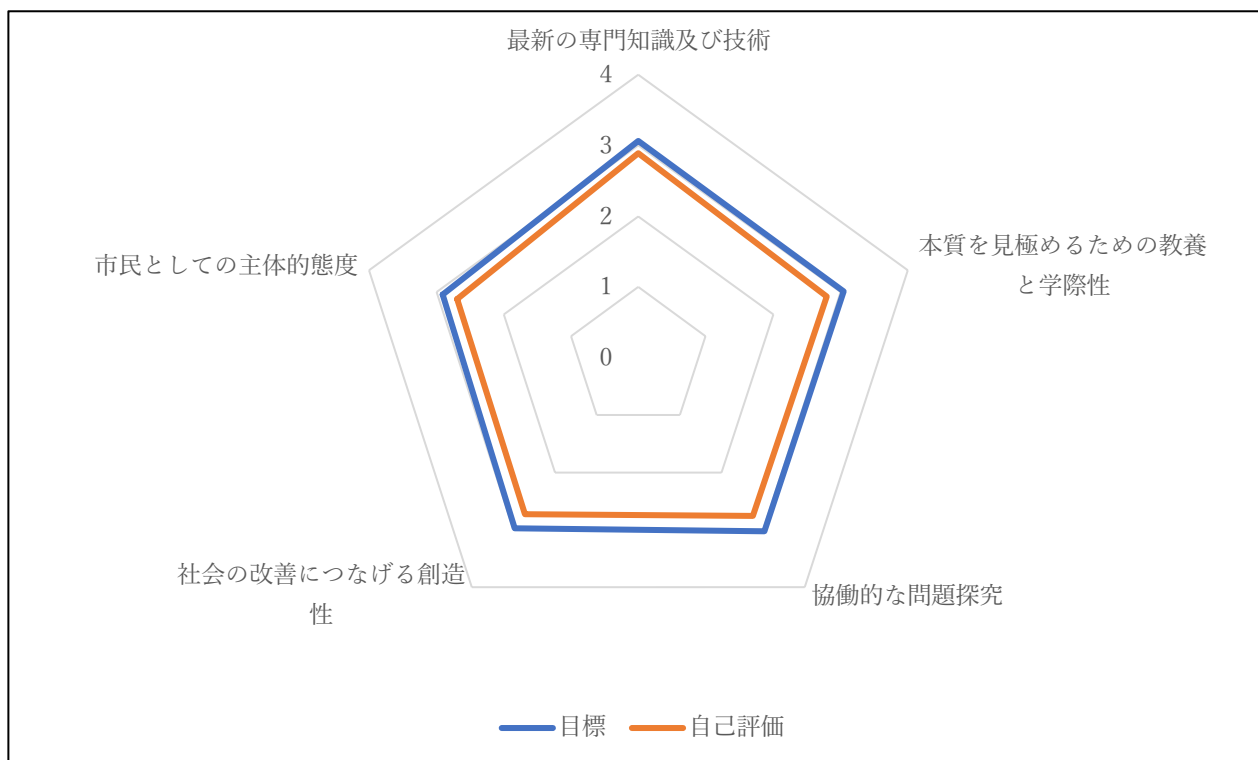


食農学類

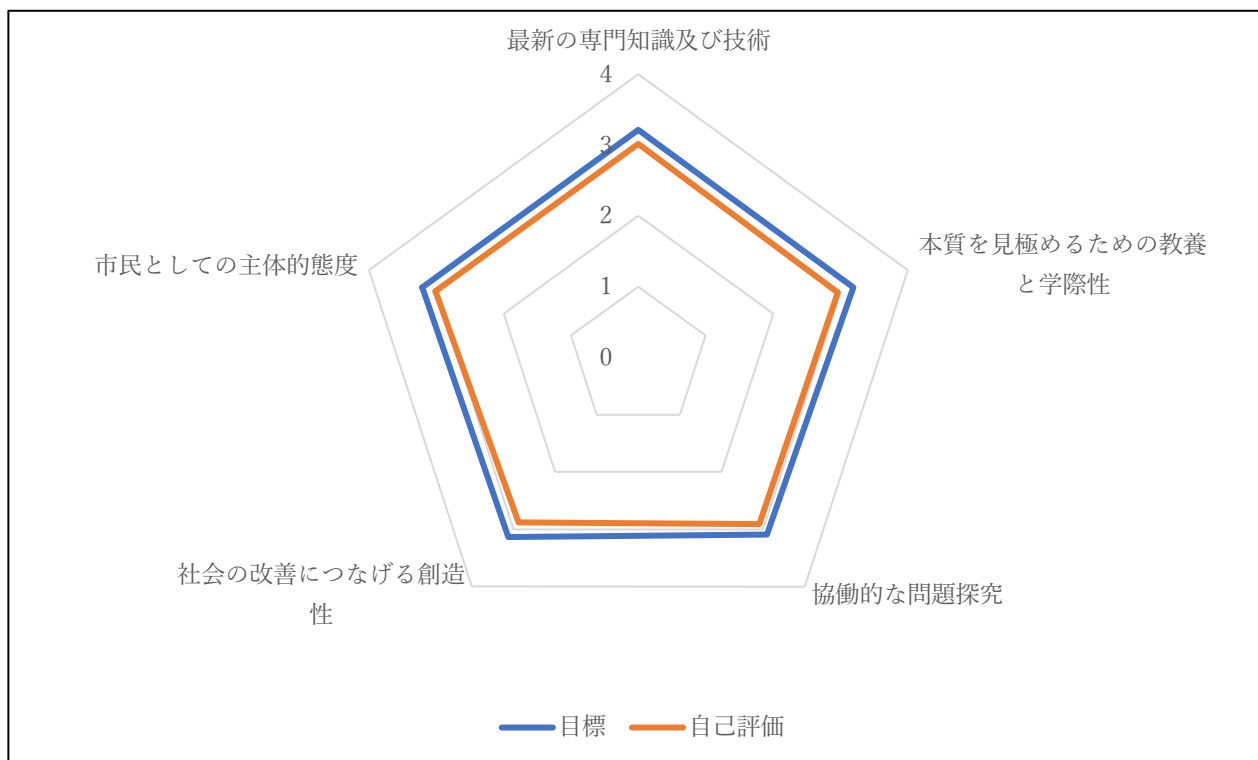


後期集計結果

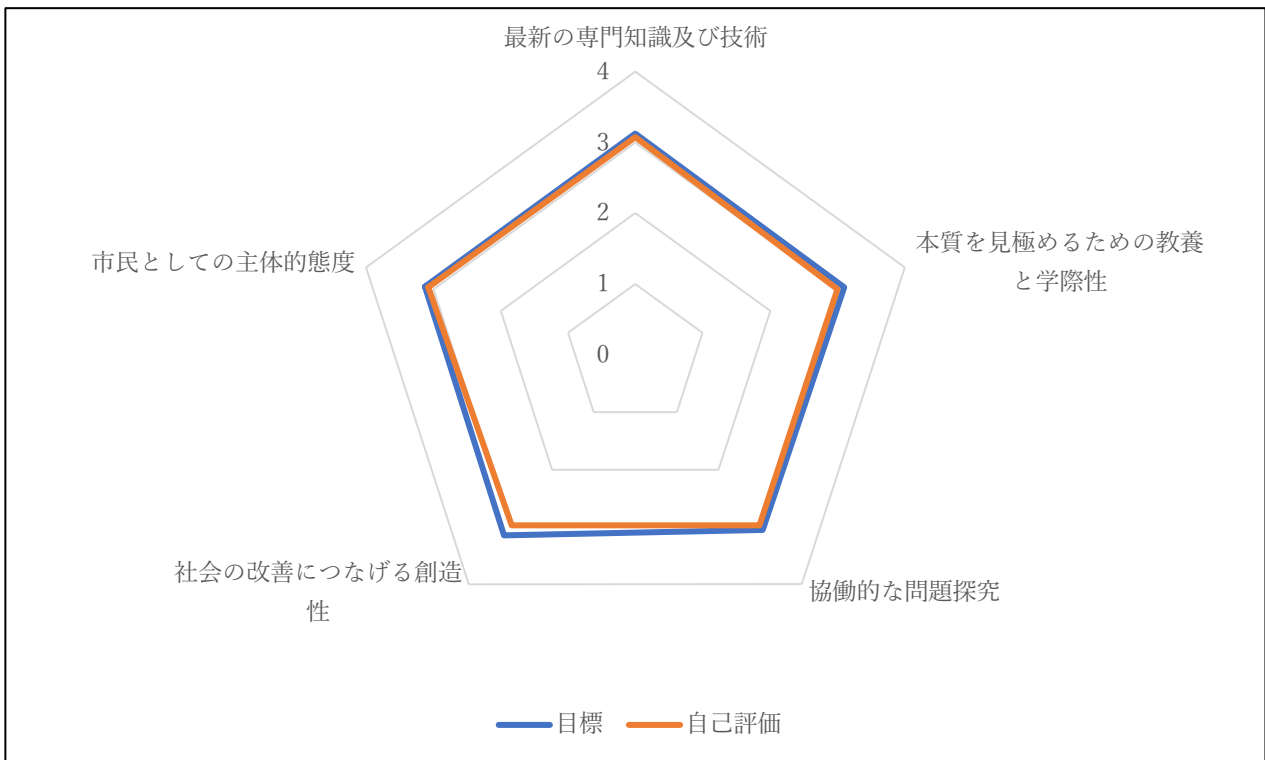
人間発達文化学類



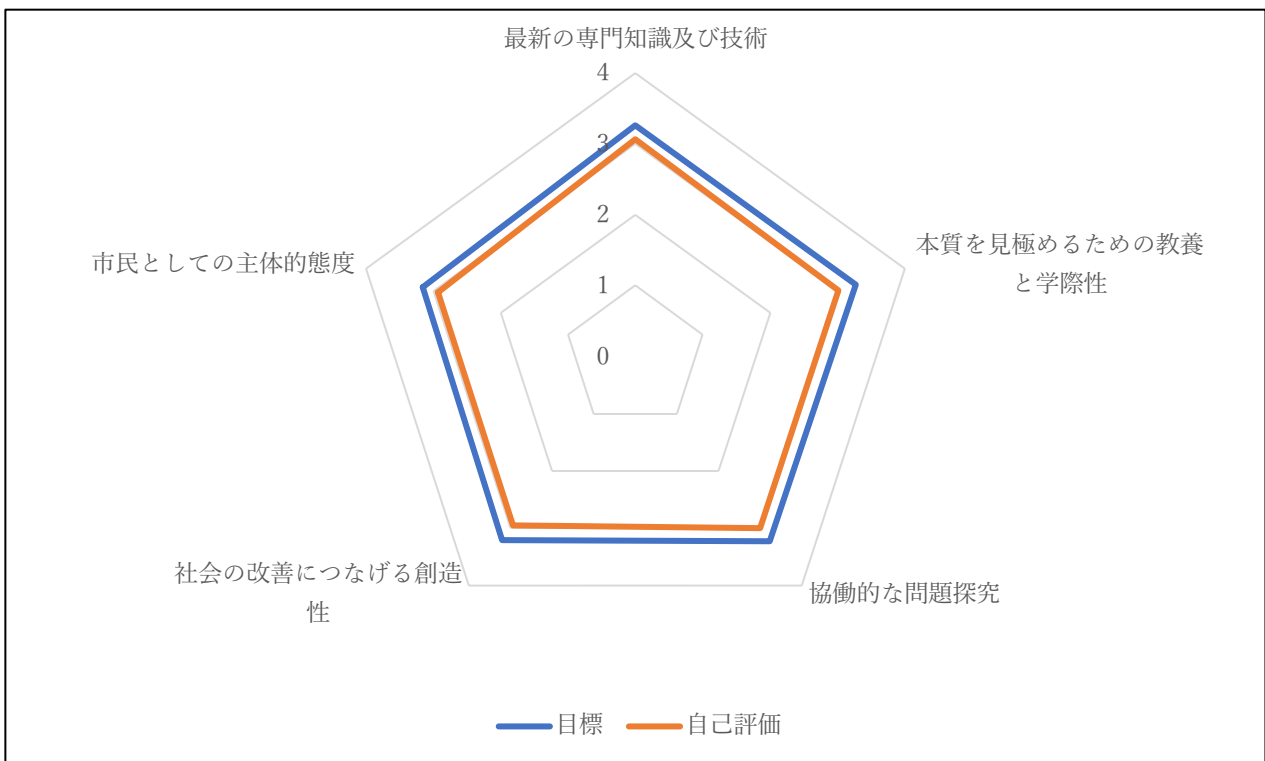
行政政策学類



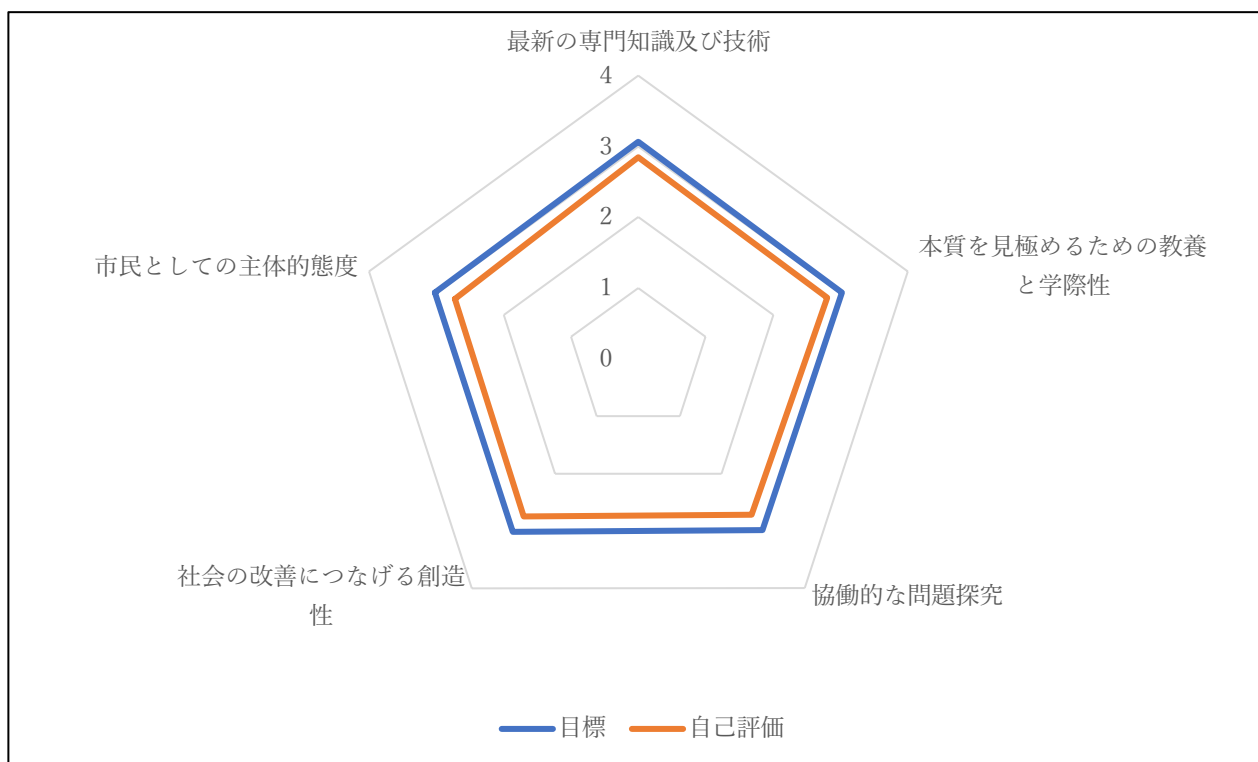
行政政策学類（夜間主）



経済経営学類



共生システム理工学類



食農学類

